

コミュニティ

community
The New Apostolic Church around the world



2024(令和6)年3月号



(nac.today)

- 恐れや疑いを乗り越えて祈る……………2
- 祈るために山に登るとは……………3
- 祈りは役に立つのである!……………4

(教理)

- 教役職の選出と召命……………5



日本新使徒教会

恐れや疑いを乗り越えて祈る

祈りは私たちを神様と結びつけます。それは真っ暗な腹の中においても同様です。ジョン・シュナベル教区使徒（アメリカ合衆国）は、大魚に飲み込まれた預言者ヨナの話を用いて、正しい祈りが何をもたらすかを教えています。



もできます。「主よ、あなたに向かって大声で申し上げます。あなたは私の人生で起こっていることをご存じです。どうか平安を与えてください。孤独の苦しみから解放してください。イエス様の御名によって、あなたがなさろうとしておられることを賛美します。アーメン。」

熱心に祈っている時は、神様に語りかけているだけでなく、聖霊の

ヨナ書二章で、預言者ヨナは大魚の腹の中にいることに気づき、祈ろうという気持ちに駆り立てられます。この祈りは、実にありのままに心痛な思いで主と交わした対話の典型であり、この祈りによって、彼は非常に暗い場所から変化を遂げた人間となったのです。

効果的な祈りはだいたい、現実味に溢れています。皆さんは、問題を認識したり問題に直面したりして、苦しみながら主に呼びかけるのではないのでしょうか。主は決して驚かれません。求める前にご存じなのです（マタ6：8）。ただ、もし皆さんが恐れや疑いを乗り越えたいのなら、まずご自身の心を主に向かわせなければなりません。ヨナの苦闘を考えてみましょう。自分が奈落の底にいると分かると、彼は神様に心を注ぎ、神様への信頼を表明したのです。

人間である私たちは、自分が抱える疑いを疑わなければいけません。信仰は、自分の考えより主を求めることによって前進します。主を求めれば求めるほど、簡単に信仰が前進します。頻繁にそして効果的に祈るならば、全能なる神様と速やかに関係を持つことができ、たとえ暗い腹の中においても、すぐに慰めを見出すことができます。

さらに、イエス様の御名において、言い換えれば、イエス様のように、祈らなければいけません。四方八方から迫られた時に、どうすればイエス様のように祈れるでしょうか。ヨナの祈りを手本とすることもできますし、次のように祈ること

賜物を宿している皆さん自身の魂にも語りかけていることになります。聖霊は皆さんが神様とどの程度の距離にいるかを理解させてくださいます。つまり、神様が近くにいてくださること、永遠に共に過ごそうとお望みであること、絶対にお見捨てにならないことを分らせてくださるのです。野の花を思い、あすのことで思い悩んではならないことを、主は改めて思い起こさせておられます（マタ6：28, 34）。これにより皆さんはこれからのことを考え直して、主がなさることをありのままに理解することができるのです。祈ることによって、自分を表現し、力の源泉とつながるだけでなく、物事を、聖霊と一緒に、イエス様の御心で考えることができるのです（フィリ2：5）。

さらに、聖霊についてのこうした認識と確信を喚起しなければいけません。主に気楽な態度をとることはできません。何かが起こるのを、ひとりで変わってくれるのを待ってはいけません。信仰においては、積極的な姿勢で常に主に向かいます。

恐れと疑念を乗り越えて祈り、全能なるお方を信頼するならば、「大魚」が皆さんを口から吐き出して、神様の恵みによって、皆さんは変わることができるのです。

原著：John Schnabel

<https://nac.today/en/158033/1249153>

nac.today: New Apostolic Church International

祈るために山に登るとは

コンゴ民主共和国南東部を管轄しているチチ・チセケディ教区使徒は、祈るのに適切な場所を見つけるために、山々を横断します。今年二回目の「この人に聞く」で、チセケディ教区使徒は、祈りにとって「山」という言葉にどのような意味があるのか、祈る場所としてイエス様はどこを勧めておられるのかを寄稿してくださいました。

私の住むコンゴ民主共和国では、伝統的にキリスト教信者が祈りの山と呼ばれる尾根に行って、神様に祈りを献げます。私たち新使徒教会員にもそのような場所があるのを、ご存じでしょうか。

祈るために山に登るという行為は、古代から行われていました。昔、山々は神と出会うのに適切な場所とされていました。イスラエルの人々はこの伝統を続けていました。聖書によれば、神様は山でモーセにご自身を現されました。後に、山に代わって丘の上に神殿が建てられ、そこが神様とその民の出会う場所とされました。

新約になり、イエス様は山で変貌を遂げられました。旧約との関連性を構築するためでした。つまりイエス様と御父との関係のほうが族長と御父との関係よりはるかに強いということです。ではなぜイエス様は、祈るために山を離れて行かれたのでしょうか。民衆の雑踏を離れて、一人になれる静かな場所を探しておられました。

私たち新使徒教会員にとって、祈るために山に登るというのは、一つのたとえなのです。祈りを効果的なものとするという意味です。日常生活の悩み事を乗り越え、町の騒音から離れ、信仰の高嶺に登る必要があるのです。

そのために、ヨハネによる福音書 4 章 19～24 節の言葉を引用します。



「女は言った。『主よ、あなたは預言者だとお見受けします。私どもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。』イエスは言われた。『女よ、私を信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、私たちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真実をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真実をもって礼拝しなければならない。』」

原著：Tshitshi Tshisekedi

<https://nac.today/en/158033/1249189>

nac.today: New Apostolic Church International

ローデウィック使徒が来日されます！

来る 2024 年 3 月 15 日（金）から 18 日（月）にかけて、ローデウィック使徒が来日し、日本の会衆の皆さんに奉仕をされます。今のうちより予定に入れていただき、使徒を通して神様からの恵み、悟り、力に与りましょう。詳しいことは後日発表致します。



祈りは役に立つのである！

シュナイダー主使徒は、今年の標語を選考するに当たり、一人で祈ることの大切さを強調しました。新年礼拝の説教では、祈りの持つ様々な要素について解説しました。



1月7日、2024年最初の礼拝を、シュナイダー主使徒はスイスのバーゼル教会で司式しました。年次標語「祈りは役に立つ」を提示するために、全世界の教役者が引用したのと同様、「絶えず祈りなさい」というテサロニケの信徒への手紙一5章17節を引用しました。〔以下、説教の概要〕

三位一体であることの意義

まず、パウロは「イエスは仲介者である」と言っています。「何が起きようと、イエス・キリストが神の玉座で私たちを執り成してくださる」と言っています。「仲介者」というたとえば、神様が三位一体であることに関する新使徒教会の考え方と、どのように整合するのでしょうか。御子が私たちのために祈ることで、御父の御旨や目的が変わるのでしょうか。そうではありません。御父、御子、聖霊は一つであり、御旨も一つです。パウロは、イエス・キリストによる私たちのための執り成しについて述べていますが、これは、神様がいつでも皆さんを助け赦してくださる、ということです。私たちが言葉につまずいた時、聖霊が私たちのために祈り執り成してくださることを、パウロは指摘しています。私たちの魂が泣き叫ぶ声、渇く声を、神様はいつも聞いておられます。私たちの痛み、苦しみを、いつも感じ取ってくださいます。適切な言葉が見つからなくても、ただのため息であっても、神様は私たちの祈りを聞き取ってくださいます。

祈りに含める要素について説明します。

崇拜

神様を適切に崇めるためには、神様が全能で完全なお方であ

ることの重要性について、いつも考えておく必要があります。神様には絶対に過ちがありません。神様がなさることはすべて完璧です。修正や改善が必要なことは一切ありません。神様の本質は愛です。これは、私たちが神様を崇める時に考えるべき面でもあります。それ故、神様を畏敬し、信頼を厚くするのです。

感謝

私たちの献げる感謝は、私たちの生活状況から生じる結果ではなく、私たちの心の状態に基づきます。財産に恵まれているながらもいつも不満を感じている人がいます。一文無しでありながらもとても幸福な人も少なからずいます。つまり、満足不満足と資産の有無とは相関関係にないということなのです。

全能の神様が皆さんを思いやってくださることに気づき、神様からこれまでいただいたものを認識しているなら、皆さんは感謝と満足を感じることができます。感謝できる人は強く、霊的に均衡がとれています。感謝は私たちにとって祝福となるのです。

嘆願

神様と対話して、自分の悩みを伝えてください。恥ずかしがらず、恐れず、遠慮せずに、悩みをすべて自由に打ち明けてください。うれしいことがあったら、そのことを神様に話してください。うれしくないこと、腹が立つこと、不愉快なこと、不満なことがあったら、神様のところに行ってください。祈る時に、特別な格好をする必要はありません。祈るためにひざまずいたり、ベッドの前、祭壇の前に膝をついたりする必要はありません。心の中で神様と会話することもできます。

執り成し

執り成しという要素は、イエス・キリストの再臨に備える中で、重要な部分です。イエス様は、ご自分に従い御旨を行う人を、御許に引き上げられます。キリストの御旨とは、私たちが自分を愛するように隣人を愛することです。この戒めだけで、執り成すことが必要になります。

とはいえ、執り成すことによって神様の御心やご計画を変えさせることはできません。そのようなことになれば、神様以

上に隣人を愛することになります。

聖書は、執り成すことの大切さを証ししています。イエス様はご自分のために祈り、初期キリスト教の信徒たちや初代の使徒たちは互いに祈り合っていました。パウロはよく「自分のために祈ってほしい」と教会に訴えていました。

執り成しは祈っている人に効果をもたらします。隣人への愛から、その隣人のために祈ってあげなければいけないという気持ちになります。時間をかけて、その人の幸福に言及します。すると、神様による救いのご計画こそ唯一の解決手段であり、人々が新天地に入り神様と再び永遠に生きる唯一の方法であることが、はっきりします。このように考える結果、今度は隣人の救いに集中する執り成しとなるのです。

このように執り成すと、隣人にも効果をもたらします。「自分のために祈ってくれる人がいる」と分かると、励みになります。「まだ自分に興味を持ってくれる人がいる」と考えることができます。多くの兄弟姉妹が私〔=主使徒〕のために祈ってくださっているのを知っています。誰かも人数も分かりません

が、一つ分かっていることがあります。それは「兄弟姉妹の皆さんが祈ってくださることによって、務めを果たせている」ということです。執り成しが役に立っているのです。

御心が成りますように

主の祈りについて「御心が成りますように〔御心の…成させ給え〕」は、あきらめを表明するものではありません。神様はご自分がなさろうとしていることを、あらゆる方法で実行されます。これについて私ができることは何一つありません。主の祈りにおけるこの一節を、確信と熱意をもって祈りましょう。「愛する神様、あなたの御心が成就しますように。あなたがなさろうとしていることを、私は知っております。私を救おうとしてください。永遠の幸福をもたらそうとくださるのです。」

原著: Simon Heiniger

<https://nac.today/en/158033/1250586>

nac.today: New Apostolic Church International

教役職の選出と召命

教役職に関する私たちの考え方の中で、「何を」と「誰に」の問題については解決しました*。残りは「教役職がなぜ信徒に与えられるのか」という問題です。これについてのジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒による解説です。

新使徒信条第五条には、次のように明記されています。「私は、神によって定められた教役者が使徒によってのみ叙任されること、職務執行のために与えられる権能、祝福、聖別は使徒職からもたらされることを信じます。」これについて教理要綱には以下のような注解が付いています。

- 人が教役職に就くのではなく、そもそも会衆がその職を行うわけではない。教役職は神が教会に対してお与えになった神の賜物である。
- 神ご自身がある人物を指名され、その人物が職務を受ける。
- 使徒団からの叙任の際に、神によるご指名が了解される（教理要綱 2.4.5）。

信心を維持・増強する

「職務への選出は天来のもの」という信心は、私たちの教会がもつ豊かさの一部です。この信心は教役者にとって、意欲や強さの源泉です。同時に、会衆の側もこの信心によって、霊的職務を受け入れることができます。

周知の通り、叙任の前に神様のご指名があり、このご指名が使徒による叙任の判断として具体化します。とはいえ、内容の重要性を考えると、これでは幾分説明不足と言わざるを得ません。

状況によっては、神様が教役者に指名なさることに対して、疑問が生じるかもしれません。例えば、教役者が職務にふさわ

*日本語版「コミュニティ」2022年12号、2023年3号及び9号参照



しかなかったり、職務が果たせなかったりする場合などです。叙任する教役者の選出は、ほとんどの場合、次のように行われます。

- 当該地区の責任を担う教役者が、叙任候補とする兄弟姉妹の一覧を、使徒に提出する。
- 提出された一覧に基づいて、使徒（もしくは教区使徒）が叙任する兄弟姉妹を選出する。
- 当該地区の責任を担う教役者が、選出された兄弟姉妹と連絡を取り、事情を説明する。
- 選出対象者の同意が得られた場合、使徒はその者を教役者に叙任する。

この叙任に向けた手続きを、神様によるご指名と調和させることは、必ずしもたやすくありません。そこで、神様によるご指名と職務への召命の概念を説明することが私には有益に思えます。

神によるご指名

神様がお決めになるすべての事柄と同様に、神様による教役

職へのご指名も、私たちが信仰によってしか理解できない秘義です。なぜ神様が信徒を選んで特別な使命をお委ねになるのかを、使徒でさえ、完全に理解できません。使徒の任務は、神様の御旨を理解し、その御旨に従って行動することしかないのです（教理要綱 7.7）。

どの信徒が神様による教役職への召命を受けているのかを決めるためには、以下の事柄を考慮しなければいけません。

教会が必要としているか。教役職になること自体で終わりではありません。教会が必要としている事柄に対応するために、神様によって教役職が与えられます。使徒とその共働者は、会衆が必要としていることや要求していることを明確に理解するために、聖霊に導いていただくことが必要です。

霊的賜物。神様は教役職に指名された人物に、職務の行使に必要な霊的賜物をお与えになります。教役職に召された信徒は、以下の項目を実行することによって信認が得られます。

- イエス・キリストを信じ、その死と復活と再臨を信じる。
- 福音に忠実。

- 教会が救いの仲介役であることを信じ、使徒、 sacrament、教役者の職務を信じる。
- 神様と信徒を愛する。
- 自発的に奉仕する。

人間的能力。神様からのご指名は、対象の信徒に対して神様がお与えになる能力においても現れます。その例の一部としては、聞く力、対話能力、自らをはっきり表現する能力、胸襟を開く能力、常識、知識、学ぼうする能力と意志です。使徒とその共働者は、教役者の人間的——すなわち性格面、感情面、知性面の——能力も、奉仕に召される会衆の必要に対応していることを確認しなければいけません。

会衆側の受け入れ。教役職は神様が会衆に賜る贈り物です。神様は信者たちに仕える者としてふさわしい教役者を選ばれます。使徒は、叙任される人が会衆によって十分受け入れられることを確認しなければいけません。初期の教会では、使徒たちは教会に、執事として叙任すべき七人の男性を選出するように要請しました（使徒6:1-6）。こんにち、この決定は、地元で教会の代表として責任を担っている会衆主任または地区主任に委ねられます。彼ら指導統轄者は、使徒に叙任を提案することによって、対象者の霊的賜物と能力を会衆が認識していることを確認します（あるいは認識できるであろうことを期待します）。

教役者自身が召命を受け入れる。神様によるご指名は、常に召命と密接に関係しています。神様はお選びになった人物を召命され、選びを受け入れるかまたは受け入れない機会をお与えになります。私たちは、この召命が使徒によって、あるいは必要であればその代理人によって、信徒に開示されることを確信します。しかし、これが信徒をご自分への奉仕にお召しになる唯一の方法ではないことは確かです。

神様からの召命は、それを受けた人々の個人的な歩みにおいても現れます。神様は、生活状況や個人的な経験を通じて、お召しになる人物の心に以下のものを目覚めさせます。

- いただいた賜物や恩寵への感謝。
- 神様と教会への愛。
- この感謝と愛から生じる、神様と教会にお仕えしたいという純粋な願望。

指名と召命の確認

内なる召命を感じることに、使徒職からの召命とがつながることによって、信徒は神様によって職務に召されたことを確信できます。その後、召命を受けた人は、自らが指名され



された者であることを、以下の事柄を、自らの自由意志で宣言することによって、確認しなければいけません（二ペト1:10）。

- 新使徒信条を信じること。
- 与えられた囑託の範囲内において職務を遂行すること。
- 使徒職や他の教役者と一緒に働くこと。
- 新使徒教会の定める規定や取り決めに従うこと。

召命を受けた人たちが各々自分なりの決断を自由に行い、召されたことの意義をしっかりと自覚することは大切です。召命を受けた人は、自らの義務の内容とその義務から生じる意味について、はっきり分かっているなければなりません。ですから意思決定に際しては、当人の配偶者も一緒に関わるのが大切です。

叙任を受けた後は、選ばれたことをさらに強固なものとしなければいけません。そのためには、

- 自らを聖別します。
- 神様の御旨を悟り、御旨に従って行動するよう努めます。
- 使徒団と他の教役者たちとの一致を深めます。
- 賜物や能力を進化・成長させます。
- 職務に必要な知見や能力を習得するために、修練を積みみます。

教会の指導統轄のほうからは、教役者たちが職務面の指導や支援を受けられるようにしなければいけません。一方、信徒たちは、祈りによって教役者を支えるだけでなく、彼らに感

謝し、彼らと連帯しなければいけません。

指名が成功を保証するものではない

神様による指名は、叙任によって実現されますが、教役者がその職務を遂行できない可能性を排除するものではありません。「しかしそれでも、神から召されたことに疑義を挟むことはあり得ない。」(教理要綱 2.4.5)。

ここで教理要綱は、完璧で過ちの皆無な神様と、神様の使命をいただいても不完全で過ちを犯しがちな人間とを、区別しています。

誤解を避けるために、私たちにとって「職務を遂行できない」とは何を意味するかを、まず明確にしましょう。ここでいう「できない」もしくは「失敗」とは、生じた結果を指すのではなく、教役者が神様の御旨をどのように実現させているかを指しています。

教役者が職務上の囑託を実現できない要因は様々考えられます。

次の場合は、うまくいかない原因が教役者にある可能性があります。

- 行動が教役職として不相応である。
- 使徒団と一致していない。
- 自分の振る舞いによって教会員からの信頼を得られない。
- 自分の能力や利点を、教会の奉仕に活用しようとしめない。

どの場合も、上からの祝福を自分から拒否しているため、働きが失敗に終わることになります。とはいえ、その人物の行動如何に関わらず、職務上の権限の範囲内で行ってきたこと(sacramentの施与、罪の赦しの宣言、祝福の施与)に対して、疑義を差し挟む余地はありません。それらは有効のままですし、効果も発揮されます。

職遂行のできない原因が会衆にある場合もあります。人間の持つ弱さによって、会衆に属する人物がある教役者に対して不寛容な態度、あるいは敵対的な態度をとることがあります。

するとその教役者はもはや会衆と一緒に自分の囑託を果たせなくなります。このような形で職務が遂行できなくなる責任は、教役者ではなく、会衆にあります。

また、使徒も人間ですから不完全であり、間違いを犯すことがあります。もし兄弟姉妹が最善の努力を尽くしたにもかかわらず、その務めを果たせなかったことが判明したら、自分自身を疑う正直さが、使徒に求められます。おそらく、会衆に必要なことや教役者の能力を評価する際に誤りがあったのでしょう。必要であれば、使徒は、教役者を支援するために、能力に合うように職務を調整し、教役者とその家族が適切な牧会を受けられるようにしなければいけません。

外的状況によって、職務遂行が不可能になる場合があります。場合によっては、叙任を受けた後に起きた事態によって、職務に就くことが困難になります。例えば、以下のような場合です。

- 本人の健康に問題が生じる、あるいは家庭や職場が大きく変化する。
- 会衆の構成が大きく変わったことによって、要請項目が変わる。
- 人口の増減により、会衆組織の変更を余儀なくされる。

こうした変化によって、神様の召命を疑問視せず、以下のような事柄を自らに問いかけなければいけません。

- 現在神様は何をお求めになっているのか。
- 神様の御旨に従って職務上の権限を行使できるようにするにはどうすべきか。
- 職務上の囑託を適応させるべきか。

職務を行ったからといって、救いが保証されるわけではなく、教役者が職務を遂行できなかったからといって、その教役者が救いへの道から排除されるわけでもありません。教役者の務めに変化はなく、それは救いの獲得を補佐することです。職務受諾を拒んだ人物を裁くことが使徒の務めではありません。要するに、職務遂行の困難な教役者にとって、特別な励ましと支援が必要であることを、使徒は忘れてはいけません。

コミュニティ

2024(令和6)年3月号・日本新使徒教会発行

日本小教区主任牧師: 門平 彰弘 (E-mail: kadohira.nac@icloud.com)

〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320 Tel. 042-374-0070 (日本教区)

新使徒教会国際本部: <https://www.nak.org/>

新使徒教会西太平洋教区: <https://www.nacwesternpacific.org/>

新使徒教会日本教区: <http://www.nac-japan.org/>

写真著作権

教会 (p.1)

アメリカ合衆国教区 (p.2)

コンゴ民主共和国南東教区 (p.3)

スイス教区 (p.4)

カナダ教区 (p.6, 7)

作成: 松岡利恭